

令和5年12月7日

久留米市議会議長 吉富 巧 様

建設常任委員長 吉武 憲治

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日程 令和5年11月6日（月）～8日（水）
- 2 派遣先及び内容 栃木県宇都宮市：脱炭素先行地域づくりの取組について
神奈川県藤沢市：インクルーシブ公園について
- 3 派遣委員

委員長	吉武 憲治
副委員長	堺 太一郎
委員	中村 博俊、生野 薫、石田 眞一郎、小林 ときこ、 山田 貴生、田住 和也、田中 貴子
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随員 山根 尚人

視察報告書

委員会名	建設常任委員会
視察日時	令和5年11月7日(火) 午前9時30分～午前11時
視察先・概要	栃木県宇都宮市 人口：約51万3千人 面積：416.85k㎡ 特記事項：中核市
視察内容	脱炭素先行地域づくりの取組について
選定理由	本市同様、2050年までに二酸化炭素実質排出ゼロを目指すと宣言している宇都宮市において、環境省の指定する脱炭素先行地域に選ばれた取組内容を本市におけるゼロカーボンシティ実現に向けた取組の参考とするため。
調査概要	宇都宮市議会にて、篠崎副議長の挨拶に引き続き、環境部 環境創造課 カーボンニュートラル推進室 篠原総括から、脱炭素先行地域づくりの取組についての説明を聴取し、質疑応答を行った。
調査内容	<p>宇都宮市は地域特性として冬季の日照量が多く、家庭用太陽光発電の新規導入量が中核市で第1位となっている(約63,800kW、令和4年12月現在)。また、都市づくりとしてネットワーク型コンパクトシティの形成を目指しており、公共交通ネットワークの構築において拠点間を連携・保管する取組を進めている。公共交通の利用により、環境負荷の少ないまちづくりを目指しており、再生可能エネルギーによる電力で走る路面電車「LRT」を導入している。</p> <p>あわせて、宇都宮市はカーボンニュートラルの実現を目指している。温室効果ガス削減のため、全市一丸となりあらゆる主体が取り組めるよう、令和4年にロードマップを策定。各主体による様々な取組事例や効果を提示している。</p> <p>その一つに、市の取組としてLRT沿線の脱炭素化促進を図っている。LRTの整備を契機としてその沿線をモデルエリアとした低炭素化策を構築し、将来的にその仕組みを市域全体に広げていく計画である。取組内容は、①再生可能エネルギー設備導入、②EVの普及・電動キックボード・シェアサイクルの導入、③電車での貨客混載(モーダルシフト)、④新地域電力の普及など。</p> <p>市内のごみ処理施設や家庭用太陽光パネル等で再生可能エネルギーにより発電した電力は、市外電力会社に売電され市内消費されていなかった。また、令和元年度には買取価格の低下(卒FIT)も発生し、設備更新も必要になるなど再生可能エネルギー電力の減少が見込まれていた。再生可能エネルギーを市</p>

内消費するため、新地域電力会社設立を検討した結果、市が 51%を出資し「宇都宮ライトパワー株式会社」を設立。卒 FIT したごみ処理施設や家庭用太陽光の電力を買い取り、市有施設や LRT で消費できる仕組みを構築した。これにより LRT での消費電力はすべて宇都宮ライトパワー株式会社の供給電力で賄われ、再生可能エネルギー100%の電力で走る公共交通を実現させた。

脱炭素先行地域を目指す取組として、各施設での太陽光発電・蓄電池設備を最大限導入するとともに、宇都宮ライトパワー株式会社による再生可能エネルギーの一括調達と高度なエネルギーマネジメントを行い、家庭等による CO₂ 排出の実質ゼロと、公共交通ネットワーク脱炭素化による運輸部門の CO₂ 削減を図ることとしている。



<視察の様子：宇都宮市>

主な質問・
応答

問：カーボンニュートラルの実現に向けた具体的な取組は。

答：現在、地球温暖化対策実行計画の改定を進めている中で、検討している取組としては、太陽光発電の導入支援が必要と考えている。あわせて、再生可能エネルギーを活用するための蓄電池導入や電気自動車の購入に対する支援なども検討している。対象は一般家庭だけでなく、事業所などの取組も必要と考えている。

問：事業者向け脱炭素化事業者補助金に対する反応は。

答：国の補助金を受けて取り組んだ事業で、合計 10 件程度であった。主に太陽光や電気自動車の導入に利用された。

問：個人・事業者の脱炭素に向けた意識を上げていくための取組は。

答：行動変容の促進が重要となる。「もったいない運動」を推進し、市民会議や出前講座などで、身近な活動の部分から啓発していきたい。また、今はLRT開通に伴う記念イベントが毎週どこかで開催されており、人が集まる場所を捉えてPR活動を続けている。

問：ゼロカーボンを目指すための森林整備の考えは。上位計画を進める上で事業課の進捗管理や把握はどうまとめているか。

答：市街地の拡大により森林面積が減少している中で、CO₂削減の観点から必要な面積保全に努めている。また、市長を本部長としたゼロカーボン推進本部を庁内に設置し、カーボンニュートラル計画を事業の実行計画に落とし込む作業があるため、森林吸収量の必要性など関係部局と調整を図っている。



<集合写真：宇都宮市議会視察会場にて>

その他（意見・感想）

宇都宮市は日照量が多い地域であることや、家庭用太陽光発電の新規導入容量が中核市中1位など、再生可能エネルギーが活用できる環境が整っている。家庭用太陽光発電により発生した電力を売電でなく市内消費に転換させる取組は地域特性を生かした政策となり、地域ブランドの確立にもつながっていると感じた。令和5年8月から運行開始したLRTが、宇都宮市の脱炭素化に向けた取組の基軸となり、取組・まちのシンボルとしても大きな意義を果たすものであることを実感した。

家庭での再生可能エネルギーによる発電電力の活用手法や、市民が脱炭素に向けた取組を行えるよう自治体が主導する行動方針は本市においても参考となる取組事例であった。

視察報告書

委員会名	建設常任委員会
視察日時	令和4年11月7日（火） 午後3時00分 ～ 午後4時30分
視察先・概要	神奈川県藤沢市 人口：約44万4千人 面積：69.56k㎡ 特記事項：中核市
視察内容	インクルーシブ公園について
選定理由	近年、インクルーシブ公園が都市圏を中心に整備されている。神奈川県藤沢市は、県内初となるインクルーシブ遊具を秋葉台公園に令和3年3月に設置しており、設置当時の検討状況やその後の公園整備の状況について、本市における公園整備の参考とするため。
調査概要	藤沢市内にある秋葉台公園にて、藤沢市都市整備部公園課 木村主幹の挨拶に引き続き、同課 青木上級主査から、秋葉台公園に設置のインクルーシブ遊具について説明を聴取し、質疑応答を行った。その後、現地視察を行った。
調査内容	<p>インクルーシブ公園が設置された当時、藤沢市では公園施設長寿命化計画に基づく公園施設の安全性確保・予防保全的管理のための長寿命化対策を含めた計画的な改築等の更新を進めていた。令和2年度において今回の視察目的の地である秋葉台公園の遊具更新を予定していたが、当公園は更新前に設置されていた遊具がユニバーサルデザインの複合遊具であり、駐車場を整備する際に障害者用の駐車スペースを確保できる公園であった。さらに、藤沢市長が就任後の施政方針を述べた際に、「共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち（インクルーシブ藤沢）」を目指すことを表明したこともあり、その一環として「誰もが遊べて、誰もが楽しめる広場」へと整備することが必要であると判断し、インクルーシブ遊具を設置する運びとなった。</p> <p>公園に設置された遊具は4種類である。</p> <p>①複合遊具…車いすのままアクセスできるスロープや、車いすからの移乗ポイントを設定した、アクセシブルな構成。あわせて、難度のある動線やクールダウンポイントを設けるなど、多様な子が一緒に楽しめる。</p> <p>②スイング系遊具…複数人で乗れるスライド式の遊具。スロープ付きで車いすのまま乗れ、車いすの人も揺らす役ができる構造となっている。</p> <p>③回転系遊具…車いすからの移乗も可能な設計となっている複数人乗りの回</p>

転遊具。高さに変化があり、高い部分は外周で回す子供の手がかりや、体幹が弱い子も安定して座れるハイバック席となっている。回転速度が上がらない設計になっており、安心して利用できる。

④ブランコ…体を保持する大型バケットシートが設置されたブランコ。ハーネスでしっかり体を固定するため、体幹が弱い人でも安心して乗ることができる。

遊具選定に向けては、当時が計画予定に基づき更新を進めていた最中に市長の方針によって急遽遊具を選定したことや、コロナ禍だったこともあり、インクルーシブ遊具や広場の整備に向けて事前に関係部署や関係団体等の協議や意見・要望等の聴取は行わなかった。

インクルーシブ公園としての整備方針決定後、遊具設置をスタートとして実現に向けて整備を続けており、利用者の意見などから段階的に整備・改善を進めている。広場が芝生地であることから、ある程度の平坦性は取れているものの、降雨後のぬかるみなどにより車いすがスムーズに利用できないなどの課題がある。今後の展望としては、現時点で具体的な整備予定もなく、引き続き利用者の意見・要望を反映した整備を進めていく。



<視察の様子：藤沢市>

主 な 質
問・応答

問：公園整備に関する市民の反応は。

答：インクルーシブ遊具を設置・更新する前には、利用者の意見を集計したことがないため比較はできない。遊具更新後、利用者の意見を踏まえて広場

	<p>の改修を進める予定であったことも含め、現在は広場に QR コードを設置するなどアンケートの収集を行っている。意見としては、「今まで乗ることができなかったブランコに乗ることができた」「友達は体が不自由だけど一緒に遊べて楽しかった」「児童・小中学生と一緒に遊べる」など設置した遊具の効果が現れた反応が見られる。</p> <p>問：利用者数の変化は。</p> <p>答：整備前は利用者数を把握していなかったため、比較ができない。施設を見回りしている際の感覚としては、整備後に利用者は増えたと感じる。一方で、通常だと公園を十分に利用できない方に「自分も行ける、行っていい」という認識がまだ十分に浸透していないことが課題と考えている。</p> <p>問：遊具の設置費用は。</p> <p>答：遊具自体の価格が通常の公園遊具と比較すると 1.5～2 倍くらいになる。また、設置に伴う工事費が遊具価格と同じくらい必要になるため、設置すると遊具価格 2 つ分くらいの費用となる。</p> <p>問：広場の地面の整備に関して利用者から意見はあるか。</p> <p>答：広場は芝生地のため、降雨後はぬかるみが生じるなど利用しづらい場合もある。今のところ苦情や意見は無いが、通行のためにゴムチップを敷いた通路のような整備も検討していく必要があると考えている。整備に当たっては利用者の意見を聞きながら進めていきたい。</p>
<p>その他（意見・感想）</p>	<p>公園の更新計画実施時に市長がインクルーシブの方針を表明したことで、即時実施が実現したというタイミングに恵まれた整備ではあったが、中長期的な施設運営においてすぐに実践する機動性は珍しい取組であると感じた。</p> <p>本市においても、Park-PFI により整備が進められている中央公園にインクルーシブ遊具 1 台のみが設置されているが、体に障害がある子もない子も一緒になって遊ぶことのできる本格的なインクルーシブ公園を整備方針として進める場合、藤沢市のような適宜施設を更新していく整備方針はとても参考になる事例であった。</p> <p>今後、全国的に需要が見込まれるインクルーシブ公園整備の在り方としても、本市における今後の取組の参考にしたい。</p>